



遺構、遺物から見た下総地方の城

戦国期などの中世城郭は、従来から様々な見方がされてきました。なかには後世の誤った説や面白おかしくした物語をもとに、荒唐無稽な話があったことも事実です。城が出来た背景、目的から築城の詳しい年代、作り方などを含めて、同時代の信頼できる文書が残っていればいいのですが、そういう文書はなかなかありません。それで頼りにされるのが、城跡の遺構や遺物です。

下総地方に残る城跡でも、遺構や遺物を調べることで、様々なことが分かってきました。柏市の松ヶ崎城、増尾城、幸谷城、我孫子市の法華坊館、根戸城、松戸市の高城氏が拠点とした小金城、根木内城、八千代市の吉橋城を例として、遺構や遺物からみた下総地方の中世城郭、主として戦国城郭の様相について、考えてみたいと思います。



高城氏の居城、小金城跡（松戸市）



最近発掘された幸谷城跡（柏市）

日時： 2019年 11月24日(日) 13時半～15時半まで (13時開場)

場所： アミュゼ柏 工芸室

柏市柏6丁目2-22 ⇒ アクセス: 柏駅東口より徒歩7分

講師： 当会より

費用： 会員 100円 会員外 300円(資料代など)

その他： 駐車場は隣接してありますが、有料です。

主催： 手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会

【お問合せ先】

E-Mail : info@matsugasaki-jo.net TEL : 090-3579-5185 森 (平日は18時以降で)

会誌「水辺の城」第3号
現在頒布中

